

## 平成24年度本会員活動方針

平成24年度本会員代表幹事

平井 裕秀

### 1. はじめに

最初から白状しておきたい。歴代代表幹事の中で、私ほど本会員活動に参加をしてこなかった人はいないことだろう。研究会員期間の終了直前に海外赴任となり、3年を海外で過ごした。帰国後は一年の大半を海外出張に費やすことを強いられるポストで3年、全くと言っていいほど浩志会の本会員活動に参加できない状態が続いた。公務優先という言葉に甘えた不良会員の典型といえよう。それだけに、代表幹事就任の話が合った際には「とてもとても」というのが、当初の本音であった。ただ、偶然とは恐ろしい。全く同じ日に、私の考えを変える出来事が二つ重なった。一つ目は、その日の夕方に浩志会の研究会員時代の仲間からメールが届いたことだった。私の異動情報をどこかで聞きつけて、扱いのやっかいな資源国政府や国営石油会社を相手に不愉快な交渉を繰り返してきた都合6年のねぎらいで始まるメールであった。話は近隣国との国境問題に絡んだ話題に及んだ上で、最後に福島原発事故以来うち続くエネルギー行

政、原子力保安行政に対する世間の厳しい声について触れられていた。自らが経験された組織の危機経験を引合いに出され、要すれば「頑張れ」という内容のメールだった。激励というよりも「しっかりしろ」という叱咤の色彩の方が強かったと理解すべきなのかもしれない。少々長くなるが、その後半部分のくだりを書き記させていたどころ。(一応、ここで内容紹介させていただくことについてご本人にはお断りをしていますので念のため)

「・・・勝手ながら推察するに、浩志会メンバー、多かれ少なかれ、厳しい局面にさらされてきてると思うんですよね。役所はこの二十年の間に、概ねどこの組織も多かれ少なかれ、政策的大失敗、スキャンダル、そして不要論に晒されていますでしょ。通産省（原文ママ）なんか、これまでそういう話が少なかった方ですよ。・・・民間企業に至っては、これだけの長い期間の低成長で、歴史のある会社ばかりですから、多くの会社が厳しい経営状況を経験しているし、残念ながら幾つかの会社はなくなってしまいました。激しいところでは、いわれなき批判をマスコミから浴びて、中には命を落とした人だっています。我々すぐに忘れてしまうけど。・・・逆に業績を着実に伸ばし、落としてもすぐに戻しているような立派な会社も

あるのは事実ですが、そういう会社は、中の規律が厳しいからそれができている。即ち、社員の生活は、相当すり減らされているし、メンタルになる人は多数。……抱えるものが大きくなり、組織の中でもそれなりの責任を負わされる立場にあれば、悩まなければそれは嘘、真面目に仕事やっていない証拠でしょう。でも、あまり思いつめることなく頑張ってください。マスコミに総攻撃されている時は、みんな敵に見えるだろうけど、決してそんなことはないですから。……御省の人たちが頑張ってきていることを知っているし、応援してますから。そういうたぶん届いていない声の方が僕らの周りでは多数ですよ。逆に、役所に頑張ってもらわないと困るんですよ。……ご存知でしょうか、西郷隆盛の遺訓「幾たびか辛酸を歴て志始めて堅し」って言葉。にわか明治維新ファン連中にはわかんないだろうけど、平井さん達には通じるはず。繰り返しになるけど頑張ってください。」

心に響くフレーズに、何故かアドレナリンが回り、却ってその日は以後仕事が手につかなかった。週末にでも書かれたのであろう長文のメールを何度か読み返した上で、御礼の返信メールをしたためた。この友人と出会った浩志会にも感謝しながら。

そして二つ目は、その日の夜に、これまた私の異動情報を新聞で見かけたの部下との食事の席での会話だった。彼は、元々とある企業からの出向で役所に来られて、私の部下として働いてくれた男だった。随分とハードだったその頃の役所生活を気に入ってくれた、いい意味での(?)変人である。その後、親元企業に戻られた後に「刺激が足りない」と当該企業を辞職し、幾つかの会社を経て現在はコンサルタント会社を立ち上げ、そのパートナーとして活躍をしている。彼のコンサルの対象となっている会社には、浩志会会員関連企業も含まれているとのことで、興味深く仕事の話も聞かせてもらった。私の彼への質問は一つだけ。我が国の大企業のような場合、改革の必要性ややらなければならない事などは、内部の議論でも重々認識されていて、あとは如何にしがらみを乗り越えて、実行に移すかということだけなのではないか。その意味で、日本の会社を相手に業務改革のコンサルって、その後押しをするだけのことじゃないのか?とどのつまりは、「まともな仕事は請け負えて、飯は食っていけるのか?」ということである。帰ってきた答えは、意外にも「社長自身が、自分の会社が変わる姿をイメージできてないものですよ」というもので、私の心配など全く不要というくらい順風満帆

な業務状況だという。後から考えれば、自明である。そりゃ会社変革のイメージできてないからコンサルを雇っているということだろうし、異動のお祝いと言って、わざわざ一席と言ってくれるのだから余裕がないわけがない。帰りがてらにこの話を反芻し、「一流企業の会社でもそんなもんかねえ」と思った次の瞬間、頭によぎったのは、「それって国に置き換えたら同じか。うちの役所ではどうだろうか。」で、更に「自分自身はどうか。自分自信の変革のイメージとアクションは？」という疑問だった。国・役所ともに、当面やらなければいけない事くらいはトップともシェアできていても、その先にある中長期的な自国のそして組織のイメージまでには至っていない、その点では似たようなものかと。では次に自分は？バッシング続きで、不景気な話しかない今日この頃の役人生活ではあるものの、もうとうの昔に「かくすれば かくなることと知りながら やむにやまれぬ 大和魂」の心境に至っているだけに、そこに迷いはない。ただ、その職業生活だけに安住してないか、さらなる変化に向けた精進をしているのかと自らを追い込むと極めて心もとない。そしてその晩、床に就いた時には、やや論理飛躍はあるものの、「何でもいから、変わろう」という気持ちになり、代表幹事の話も何かの巡

り合わせ、喜んでお引き受けしようと考えがまとまった次第である。

## 2. 全体テーマ

上に長々と、最後はロジカルとは言い難い代表幹事をお引受けすることを決心するまでの経緯を記したのは、本年度の活動方針として掲げたいことの発想の原点がここにあるからである。私のような不良会員が偉そうに、浩志会活動かくあるべしと申し上げても、説得力に欠ける。今、私が素直に浩志会について思うことを申しあげさせて頂く。

一つ目は、守るもの。浩志会の理念の崇高さは誰も否定しないだろう。この理念を実現すべく、会員同士が研鑽をする場として活動を行っていくというスタイルも変える必要性も感じない。これまでの枠組み、グループ活動を中心に据えた各種活動、月例会、親子対談、等々の基本メニューを崩すことはしない。既に、ここ数年の幹事団、事務局の努力で、本会員活動の活性化が実をあげてきていると聞いている。この方向性を崩すことなく、更なる本会員活動の活性化を図ることとしたい。浩志会自身が「辛酸」を嘗めているわけではないが、我々の「志は」更に「堅く」していきたい。

二つ目は、変えるもの。「変えよう」というのは大袈裟過ぎるかもし

れないが、敢えて今年のテーマとして強調をしておきたい点を申し上げる。それはアクションオリエンティッドな議論、活動である。単なる仲良しグループの放談会に留まることなく、会員一人一人が実際の行動のベースとなるような活動の場としたい。特にグループ活動は、世の中を変えるため、我々一人一人はどう行動に現わせばいいのかを意識した議論・質疑にしたい。ただ漫然と話を聞き、「いやー、面白い話を聞いた」で済ますことがないようにしたい。浩志会で見聞きできる貴重な話・体験は、職場に戻って仲間内の飲み会ネタですませるのにはモッタイナさ過ぎる。社会的に影響力がある立場にある方が多いこの会の会員は、どんなテーマの話であれ他人事にすることはできない方々ばかり。得られた思いを、職場に戻って会社・役所の活動として行動に現すもよし、一人一人の個人の活動として行動に現すもよし、是非とも主体的な問題設定と議論、そして肝心なアクションとつなげて欲しい。間違えないで欲しいのは、無理にそのために外部から講師を引っ張ってきて新たな議論をしようということではない。是非自薦であれ、リクエストであれ、会員企業・官庁から時宜にかなった講師を招いて、議論を行ってもらいたい。上述したように、我々の会員がカバーできる話題は幅広く、

かつその道の第一人者を抱える組織ばかりである。明日の変革のイメージ、そのためのアクションを考えるに当たって参考になる話は、必ず見つかると思う。

以上、今年のテーマ、活動方針を申し上げた。曖昧模糊な抽象的過ぎてテーマになっていないというお叱りもあろうが、それも折り込んだ上でのメッセージとしたつもりである。幹事団には、十分にお諮りをしていないものの、例年同様、いや例年以上に、会員活動の活性化に向けたアイデアを出し、お助けに尽力してくれる筈。最後は会員皆さん一人一人次第で、会の活動の活性化は決まるなどとは申し上げない。それを考えるのは幹事のお役目。会員各自は、この浩志会活動から何かを得ようということだけを考えて、よりディマンディングに要望をぶつけてもらいたい。要望実現の結果保証はできないものの、最大限の努力をすることだけはお約束したい。